

令和7年度 埼玉県小・中学校国語教育研究発表大会 発表資料

鶴ヶ島市立富士見中学校 西原 康平

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化を実現する授業構想
～中学校国語科における「自由進度学習」の実践を通して～

I はじめに

(1) 研究の背景

「主体的・対話的で深い学び」や「個別最適な学び」「協働的な学び」など多くの学びに関する形がいろいろな言葉で示される中、自分自身の授業の中での最初の課題は「生徒の活動時間の確保」であった。「主体的・対話的で深い学び」「個別最適な学び」「協働的な学び」のどれをとっても生徒の活動時間を確保することは必須条件であると考えていたからである。

自分の授業を振り返ってみると、活動時間に関わる生徒からの声を耳にすることが少なからずあった。例えば、一つに課題に対して「もう少し時間があつたらできたのに…」という生徒や、「早く終わっちゃったんですけど何をすればいいですか？」という生徒である。このような生徒はどの授業にもいるのではないだろうか。小テストなどを行う際も同様である。「定着度を確認するための小テストであれば、制限時間を設ける必要はないのではないか」という気づきが得られた。

次の課題は「単元による得手・不得手の解消」である。国語科の学習の中でも「文学的文章」「説明的文章」「古文・漢文」「知識的事項」など、学習内容が多岐にわたっている。得意な内容について学んでいるときには、課題を解決するのに時間を余らせてしまう生徒が一定数現れる。苦手な内容について学んでいるときには逆のことが起こるはずである。それを解消できる方法を検討する必要性を感じていた。

そこで、一つの方法としていきついたものが「自由進度学習」である。生徒に学びの多くをゆだね、生徒が自ら何を学ぶのかを決定し（主体的・個別最適）、課題の意味を深く読み取りながら必要に応じて他者を頼り（対話的・協働的）、学びの中で得られた知識や考えをさらに深化させていく（深い学び）。このような授業を国語科の中で進めることができたらしどのように生徒たちが成長していくのか、そのような思いから研究が始まった。

一般的に「講義型」と言われる授業では、教師が設定した時間数の中でそれぞれの学習内容について学ぶことになる。しかし、「自由進度学習」であれば、内容によって時間の使い方を生徒自身が調整することが可能になるのではないかと考えた。（イメージは【図1】のとおり）

【図1】

【「講義型」の場合】

時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
内容	文学的文章					説明的文章				

【「自由進度学習」の場合】

時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
内容	文学的文章							説明的文章		

「説明的文章は得意だから、苦手な文学的文章に時間をかけよう！」ということができる。

(2) 本発表における「自由進度学習」とは

「自由進度学習」という言葉の定義については複数の見解がある。今回の発表でイメージしてほしい「自由進度学習」とは「生徒に活動や方法をゆだねる授業」程度である。また、本発表にあたっては、「自由進度学習」という一般的に多く用いられている用語を用いて示しているが、実践の中では「個別進度学習」として生徒たちに示している。その意図は、中学生に対して「自由」という語を示したときに「何でもあり」というイメージが先行しすぎてしまうのを避けるためである。「個別進度」とすることで「教室にいる人が全員それぞれのペースで、それぞれの課題意識の中で学ぶ」という授業スタイルを生徒に意識づけることにもつながるため「個別進度学習」としている。

授業では「取り組む課題（単元）の順序」「課題にかける時間」「課題の取り組み方（人数・相手・道具）」「場所（原則教室内に限る）」を生徒それぞれの判断で自由に選択できることとしている。生徒が自らの学習に見通しをたて、計画を実行できるかどうかという点や教師がそれをどれだけ把握し、サポートできるかという点も「自由進度学習」では重要なポイントである。

2 実践内容

令和4年度から6年度にかけて、3年間を通して行った「自由進度学習」の経過を紹介する。

(1) 第1段階（中学校1年生 1学期～2学期） **授業内自由進度学習**

第1段階では国語科の学習を進めるうえで最低限必要になる事項の習得・定着を主として授業を展開した。しかし、必要な事項を一方向的に指導するのではなく、生徒の活動を通して習得させることを意識して実施し、1つの授業内で「自由進度学習」を進めることができるように組み立てた。

(例) 「ダイコンは大きな根」(「国語1」(光村図書)) 単元計画(抄)

時	指導内容	活動内容
1	説明的文章の特徴	初読の感想の記入 語句の意味調べ 漢字の読みの確認
2	説明的文章の構成 段落の役割	序論・本論・結論を分ける 段落の役割を考える
3	接続語と指示語の役割	指示語の内容を補いながら内容を把握しなおす 筆者の主張を読み取る
4	1～3時の復習	筆者が主張を読者に伝えるための工夫は何かを考える

この授業では「指導内容」にあたる部分を授業の10分程度で全体指導したのちに、「活動内容」にあたる課題を生徒に示し、それぞれの考えた最善の方法で課題に取り組ませることにした。

課題を示す際には生徒がいろいろな角度から課題について考えることができるように、具体的にすぎない課題設定を心がけた。

(2) 第2段階（中学校1年生 3学期） **単元内自由進度学習**

第2段階では単元（教材）の中で「自由進度学習」を実施した。この段階からは、教師による一斉指導の時間が原則としてなくなることになる。これ以降の「自由進度学習」では【図2】で示したような時間の使い方で行った。

【図2】授業時間の使い方

3分 取り組み計画	42分 計画に沿った活動（「自由進度学習」）	5分 振り返り 次回の取り組み案
--------------	---------------------------	------------------------

授業開始3分間の「取り組み計画」ではその後の42分間の使い方の計画を立て、学びの準備をする時間としている。実践の中では授業開始前の休み時間の段階で「取り組み計画」を済ませている生徒もいた。

その後の42分間で生徒は計画に沿って学びを進める。この時間、教師は生徒の学びの様子を観察し、支援を必要としている生徒への声掛けなどを行う。

最後の5分では授業の「振り返り」を行う。学んだ学習内容や取り組み方について振り返る時間としている。また、それに併せて次回への計画を立てる時間としている。

「取り組み計画」や「振り返り」については毎時間使用する「自己評価シート」をスプレッドシートで生徒それぞれに配付し、記入させるようにした。（【図3】）

課題については単元内のものをすべて最初の授業で提示し、その中から生徒が取り組む順番を考えながら進めていく。また、課題に取り組む時間は授業内に限定せず、家庭で取り組む時間も生徒が自由に設定し、それぞれの生徒が効果的に学ぶことができると判断した計画で取り組ませた。

【図3】自己評価シート

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1										
2										
3		回	日	曜日	本時の計画	達成度	本時の学び(何を学んだ?) なるべく抽象化すること!	取り組み得点 (自己採点) 100点満点	メタ振り返り (自己採点の理由を客観的に)	次回の計画
4		1								
5		2								
6		3								
7		4								
8		5								
9		6								
10		7								
11		8								
12		9								
13		10								
14		11								
15		12								
16		13								
17		14								
18		15								
19		16								

(例)「少年の日の思い出」単元課題(6時間配当)(「国語I」(光村図書))

課題
1 初読の感想入力シートに初読の感想を記入する。
2 文章中の漢字の読みがわかるようになる。
3 ノートに文章中の語句の意味調べをすべて行う。
4 この物語の語り手は何人称か。
5 この物語の語り手は誰か。
6 P. 203「僕は妬み、嘆賞しながら彼を憎んでいた。」とあるが、なぜ「僕」はエーミールをこのように思っていたのかを文章の内容を踏まえて考え、自分の言葉でまとめる。
7 「僕」がエーミールに謝った後、エーミールがとった行動について、なぜこのような行動をエーミールがとったのかを文章の内容を踏まえて考え、自分の言葉でまとめる。
8 物語の最後で「僕」がちょうを「指で粉々に押しつぶしてしまった」のはなぜかを文章の内容を踏まえて考え、自分の言葉でまとめる。
9 物語を通して、「僕」の気持ちがどのように変化したのか、気持ちの変化のきっかけとなった出来事にも触れながらまとめる。

第2段階以降では生徒は取り組む課題の順序を自分で検討する必要が出てくる。課題の意図をくみ取りながら、どの課題にどの程度の時間をかけるのかを考えて、自らの学びを計画する。

また、この段階から「漢字テスト」を並行して実施する課題に取り入れた。それぞれの生徒が自分のタイミングで漢字テストを行うようにした。課題の種類を段階的に増やすことで、より一層計画を綿密に立てる必要が出てくるように課題を組み立てた。

(3) 第3段階（中学2年生） **複数単元自由進度学習**

第3段階では単元を越えて「自由進度学習」を展開した。基本的には定期試験範囲を一つの単位として、課題を示した。定期試験当日までの間に、定期試験範囲の課題をどのように進めていくのかを生徒は計画し、毎時間の授業に取り組むことになる。

この段階では一人一台端末をより効果的に活用するために、すべての生徒が課題についてどのように考えているかを互いに参照できるような Google サイトを作り、口頭での情報交換や学び合いだけでなく、オンライン上でも考えの共有ができるように試みた。また、スプレッドシートでの共同編集のワークシートなどを活用する課題も作成し、生徒が協働的に学びを進められるような環境づくりを行った。

【図4】実際に使用した Google サイト（一部）



(例) 中学校2年生 2学期中間試験範囲に関わる課題

【「盆土産」】(「国語2」(光村図書))	
	課題
1	初読の感想入力シートに初読の感想を記入する。
2	文章中の漢字の読みがわかるようになる。
3	ノートに文章中の語句の意味調べをすべて行う。
4	この物語の語り手は何人称か。
5	場面ごとの情報を共同編集ワークシートに入力する。
6	墓参りの場面で主人公が「なんとなく墓を上目でしか見られなくなった。」とあるが、これはなぜだと考えられるか。
7	父親が東京に帰る場面で、主人公が「うっかり、『えんぴフライ』と言ってしまった」のはなぜだと考えられるか。

8	この物語では「田舎」と「都会」を対比的に描いている部分がある。それぞれ、何が「田舎」をあらわすものになっていて、「都会」をあらわすものになっているのか、本文中から書き抜きなさい。（当てはまる組み合わせは複数あります。）
9	主人公から見て、「父親」はどのような人物か。
10	この物語を通して主人公はどのように変化したか。
11	この物語における「えびフライ」はどのような存在か。
【「字のない葉書」】（「国語2」（光村図書））	
1	初読の感想入力シートに初読の感想を記入する。
2	文章中の漢字の読みがわかるようになる。
3	ノートに文章中の語句の意味調べをすべて行う。
4	P.107L.17「このまま一家全滅するよりは」の後ろに省略されていると考えられる、両親の気持ちはどのようなものだと考えられるか。
5	筆者から見た「父親」とはどのような人物か。文章中の「時」の設定に注意してまとめなさい。
【漢字テスト】30問を4種類	

また、上に示したメインの課題と同時に、知識事項の定着を図るために文法の既習事項の小テストを Google フォームで作成し、生徒が好きなタイミングで文法の復習に取り組むことができるようにした。

（4）第4段階（中学3年生） **複数単元自由進度学習**

第4段階では第3段階以上に同時に取り組むことのできる単元の数を増やし、試験範囲を超えて課題を選択できるようにした。しかし、各定期試験の範囲は設定するため、試験範囲の課題を優先的に進めることになるが、進める順序の選択肢の幅が広がることになる。

課題の設定は、1年分を見通して行うことになるが、4月当初にすべての単元の課題を示すことはできなかったため、随時課題を追加できるように課題の一覧をスプレッドシートで示した。また、第3段階と同様に Google サイトも活用した。

また、副教材でデジタルワークを活用できるものを選択し、タブレット上で繰り返し学習を行えるようにし、理解を深め、知識を定着できるように課題を設定した。

（例）中学校3年生 年度初めころの課題

【「握手」】（「国語3」（光村図書））	
	課題
1	初読の感想を「初読の感想入力シート」に入力する。
2	文章中の漢字の読みがわかるようになる。
3	ノートに文章中の語句の意味調べをすべて行う。
4	この物語は何人称の語り手で進められているか、答えなさい。
5	ルロイ修道士の人物像を描写をもとにまとめなさい。
6	この物語の展開上の特徴はどのようなものか、説明しなさい。
7	物語の内容について自分で「問い」をたて、その問いについて描写を根拠にしながら答えなさい。
8	MANAVIRIA ワーク「握手」を終わらせる。
9	物語の最後で主人公が「知らぬ間に、両手の人さし指を交差させ、せわしく打ちつけていた」のはなぜだと考えられるか。

10	筆者は「握手」を通して、読者にどのようなことを伝えようとしていたと考えられるか。描写などを踏まえつつ、自分の考えを400字以上800字以内で書きなさい。
【「学びて時に之を習ふ」】	
11	初読の感想を「初読の感想入力シート」に入力する。
12	漢文の示し方、三種類すべて答えなさい。
13	訓点とはどのようなものか、説明しなさい。
14	一つ目の「学びて時に…」から得られる、今につながる教訓はどのようなものだと考えられるか。
15	二つ目の「故きを温めて…」から得られる、今につながる教訓はどのようなものだと考えられるか。
16	三つ目の「学びて思はざれば…」から得られる、今につながる教訓はどのようなものだと考えられるか。
17	四つ目の「之を知る者は…」から得られる、今につながる教訓はどのようなものだと考えられるか。
18	「置き字」とはどのようなものか。また、教科書に載っている四つの章句の中で置き字が使われているものはどれか。
19	MANAVIRIA ワーク「学びて時に之を習ふ―「論語」から」を終わらせる。
【熟語の読み方】	
1	漢字の「音読み」とはどのようなものか説明しなさい。
2	漢字の「訓読み」とはどのようなものか説明しなさい。
3	「重箱読み」とはどのような熟語の読み方か。教科書に使われている以外の具体例を用いながら説明しなさい。
4	「湯桶読み」とはどのような熟語の読み方か。教科書に使われている以外の具体例を用いながら説明しなさい。
5	教科書 P.39 の練習問題①に取り組む。
6	教科書 P.39 の練習問題②に取り組む。
7	MANAVIRIA ワーク「熟語の読み方」を終わらせる。

【図5】実際の生徒の課題画面

学びて時に之を習ふ―「論語」から				
	課題	取り組んだ日	課題についての説明・解答	進捗状況
1.1	初読の感想を「初読の感想入力シート」に入力する。			▼
1.2	漢文の示し方、三種類すべて答えなさい。			▼
1.3	訓点とはどのようなものか、説明しなさい。			▼
1.4	一つ目の「学びて時に…」から得られる、今につながる教訓はどのようなものだと考えられるか。			▼
1.5	二つ目の「故きを温めて…」から得られる、今につながる教訓はどのようなものだと考えられるか。			▼
1.6	三つ目の「学びて思はざれば…」から得られる、今につながる教訓はどのようなものだと考えられるか。			▼
1.7	四つ目の「之を知る者は…」から得られる、今につながる教訓はどのようなものだと考えられるか。			▼
1.8	「置き字」とはどのようなものか。また、教科書に載っている四つの章句の中で置き字が使われているものはどれか。			▼
1.9	MANAVIRIAワーク「学びて時に之を習ふ―「論語」から」を終わらせる。			▼
2.0				▼
作られた「物語」を超えて				
	課題	取り組んだ日	課題についての説明・解答	進捗状況
2.1	初読の感想を「初読の感想入力シート」に入力する。			▼

+

三

課題シート（読解関連編）▼

課題シート（知識関連編）▼

漢字テスト・小テスト▼

自己評価シート▼

+ ≡ 課題シート（読解関連編） ▼ 課題シート（知識関連編） ▼ 漢字テスト・小テスト ▼ 自己評価シート ▼

この段階で「自由進度学習」を行うにあたって、課題シートの中に「進捗状況」を生徒が自ら申告することにした。（【図5】の一番右の欄）進捗状況の申告の際には「取り組み中」「誰かと一緒にやりたい！」「完了！自信あり！」「終わったけど自信がない…」の4項目を用意し、生徒が自分の状況に応じて選択することにした。

生徒たちは互いの課題シートを参照しながら課題を進めることができるため、互いに誰がどの課題で「誰かと一緒にやりたい！」を選んでいるのかを見ることが可能である。それをもとにして、課題解決のグループをつくることも可能である。

3 成果と課題

（1）授業課題の設定について

授業で生徒が取り組む課題については、「早く終わって時間を持て余す生徒」も「ほとんどが手つかずで終わってしまう生徒」もいない課題設定をする必要性がある。その中で、ワーク課題での繰り返し学習や、小テストを課題の中に設定することなどを通して、「時間を持て余す生徒」への課題設定を意識した。多くの生徒が示した課題のほとんどに取り組むことができたが、特定の課題にこだわって取り組んだ結果、全体の課題に取り組むことができなかった生徒もいた。

3年間の取り組みを通して、現在の授業では課題の取り組み優先度を「A（全員に必ず取り組んでほしい課題）」「B（全員に取り組んでほしいが、どうしてもの場合には仕方のない課題）」「C（課題の進行度に余裕がある人が取り組んでもよい課題）」の三段階で示し、どの課題から取り組みればよいのかの判断が難しい生徒への配慮も含めた課題の示し方をしている。

また、知識に関わる課題については「自由進度学習」の中で取り組ませる場合、知識の獲得を正しく行うことができない生徒もいたため、正しい理解を後押しできる課題設定が必要になる。最低限押さえておかねばならない事項については一斉指導を行う時間を短時間でも設けるか、全員に資料として配布するなどの対応が必要であると感じた。

（2）課題の進捗の把握と評価

生徒の課題の進捗状況の把握は授業中の活動の観察及びタブレット上の課題の取り組み状況で行うこととしていたが、すべての生徒が同じ課題に取り組んでいないという状況の特性上、見取ったものに対するフィードバックに困難さを感じた。授業中に直接やり取りできるものについては授業中に済ませることができるのだが、家庭で課題に取り組む生徒もいるため、すべての課題に対して適切に指導を行うことは非常に困難である。「指導と評価の一体化」が求められている中で、「自由進度学習」の中ですべての生徒に対して指導と評価を一体的に行うためにどのような手法をとることが望ましいのか、今後の課題となっている。

（3）「自由進度学習」実施後のアンケート結果

令和6年度末の時点で生徒を対象に行ったアンケート調査の中で「1年間の「個別進度学習」は自分の力を伸ばすことに役立ったと思いますか？」という質問に対して、次のような結果（【図6】）となった。

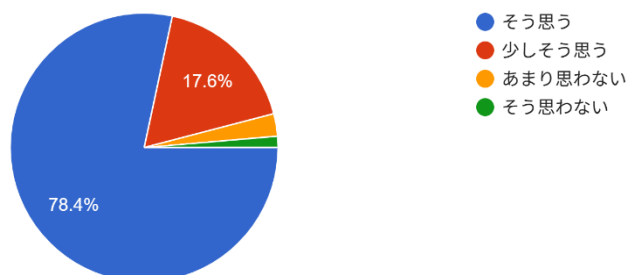
多くの生徒が肯定的に「個別進度学習」を捉えていることがわかる。

また、「グループワークや話し合い活動を通して理解を深めたり、新しい学びがあったりしましたか？」という質問にも多くの生徒が肯定的な評価をしていた。

（次頁【図7】）

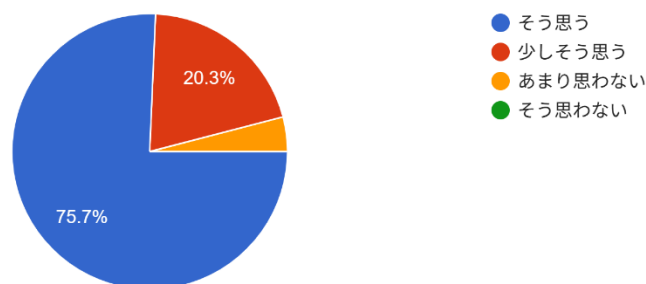
アンケートの自由記述の中にも「個別

【図6】アンケート結果



「自由進度学習」について触れている生徒もあり、「個別進度学習でみんなと話し合ったりして理解が深まってすごく楽しい授業でした。」や「個別進度学習の影響でテストの点数が上がったので良かったです。」
「個別進度学習で今までよりも考える工程が増えて様々な部分を話し合ったり、文章をよく読み取ろうとしなければならぬので今までよりも自分の頭を働かせることができた」などのコメントが寄せられた。

【図7】アンケート結果



(4) 今後の展望

多くの生徒が「自由進度学習」によって自らの力を伸ばすことができている実感を持っていることが分かったため、さらに国語の学力向上のための課題設定の方法や授業の中での生徒のつなげ方について研究を深めていきたい。また、「学び方」を学ぶことができる方法としての「自由進度学習」でもあることから、他教科での学習への影響についても意識を向けていきたい。

4 参考文献等

- ・木村明憲（2023）『自己調整学習 主体的な学習者を育てる方法と実践』明治図書出版
- ・木村明憲（2024）『自己調整学習チェックリスト リストを用いた授業実践30』さくら社
- ・小山儀秋・竹内淑子（2022）『教科の一人学び「自由進度学習」の考え方・進め方』黎明書房
- ・田中洋一・鈴木太郎（2023）『中学校国語科 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を通じた授業改善 第1学年』明治図書出版
- ・田中洋一・鈴木太郎（2023）『中学校国語科 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を通じた授業改善 第2学年』明治図書出版
- ・田中洋一・鈴木太郎（2023）『中学校国語科 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を通じた授業改善 第3学年』明治図書出版
- ・奈須正裕（2021）『個別最適な学びと協働的な学び』東洋館出版社
- ・奈須正裕（2022）『個別最適な学びの足場を組む。』教育開発研究所
- ・難波駿（2023）『超具体！ 自由進度学習はじめての1歩』東洋館出版社
- ・野中潤（2019）『学びの質を高める！ICT で変える国語授業 基礎スキル&活用ガイドブック』明治図書出版
- ・野中潤（2021）『学びの質を高める！ICT で変える国語授業2 応用スキル&実践事例集』明治図書出版
- ・野中潤・遠島充・中野裕己・渡辺光輝（2022）『学びの質を高める！ICTで変える国語授業3 Google Workspace for Education 編』明治図書出版
- ・伏木久始・奈須正裕（2023）『「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指して』北大路書房
- ・水戸部修治（2023）『国語授業の「個別最適な学び」と「協働的な学び」』明治図書出版
- ・蓑手章吾（2022）『個別最適な学びを実現するICTの使い方』学陽書房